

国内トップクラスの医薬品製造現場で

くすり政策課 指導係

主任 S. M.

平成 19 年採用

県立中央病院薬剤部、くすり政策課、厚生労働省等を経て、平成 31 年 4 月から現所属



各都道府県で同じ仕事をしている仲間で研修



子育ての様子（筆者・左）

国民の安全に係わる行政薬剤師

くすり政策課では、医薬品等の製造及び製造販売業の許可や承認に関わる業務を行っています。

私は、主に、患者さんや国民の皆さんに品質・有効性・安全性が確保された医薬品が届くよう、医薬品医療機器法や関係法令に基づき、医薬品等製造業（工場）及び製造販売業（管理事務所）への調査を行っています。

また、製造販売承認申請に基づく審査業務を行い、県内製薬企業が製造販売する医薬品が国の基準に合致しているかについても確認しています。

仕事の魅力・やりがい

富山県職員の薬剤師は、薬事や健康に関する行政職だけでなく、医療職や研究職に就くこともあります。

私は病院薬剤師として 5 年の経験を積み、実際に医療現場での医薬品の使い方、医療従事者の医薬品に対する考え方を学びました。その時に得られた知識や経験を基に、医薬品の製造業及び製造販売業を調査することにより、現場で使用する医療従事者や患者さんの目線に立つての調査ができると考えています。逆に私がまだ働いたことのない厚生センター（保健所）を経験している調査員から学ぶことも多く、毎日新しい発見があります。

ある 1 日のスケジュール

8:20	<出勤> ▼ 業務の準備
8:30	<執務開始> ▼ 届いているメール、他の係員が回覧している書類等を確認
9:30	<書面調査> ▼ 製薬企業が持参した医薬品の製造記録や試験記録等を確認し、医薬品が適切に製造されていることを調査
12:00	昼食・休憩
13:00	▼ 午前中の書面調査の内容について、復命書や報告書を作成
(適宜)	<電話対応> ▼ 企業からの質問・照会等に対応
16:00	<受付業務> ▼ 製薬企業からの許可情報の変更に 関する届出の受付
16:30	▼ 届いているメール、他の係員が回覧している書類等を確認
17:15	<退庁>
17:45	帰宅、子供とお風呂や夕食

様々な経験をできる可能性があります

私は病院、くすり政策課の在籍を経て、東京へ 3 年間出向し、厚生労働省、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）での業務を経験しました。

厚生労働省は薬事行政に関するトップの機関であり、めまぐるしく変化していく日常を経験しました。様々な問題が発生し、それらに対応していく日常の連続でした。

PMDA では、現職の指導係で行っている調査を全世界規模で実施していました。海外に行くことも多く、複数の地域の文化に触れることもできました。その経験もあり、2019 年 11 月に富山で開催された国際会議（海外からの調査員が多数出席）にも参加しました。

メッセージ

薬事衛生に関する業務について、いろいろな立場から仕事をしてみませんか。やる気、興味を持っている方を大歓迎します。

世界に羽ばたく薬都富山を目指して

くすり政策課

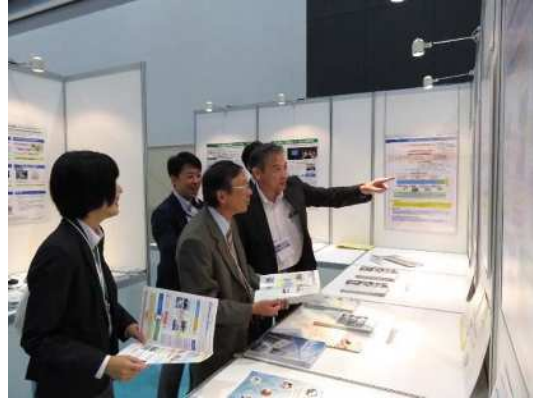
くすりコンソーシアム推進班

副主幹

T. M.

平成4年採用

砺波厚生センター、広報課、
食品生活衛生課、中央病院等を経て、
平成31年4月から現所属



ものづくり総合見本市でコンソーシアムの取組みを紹介（筆者・左）

担当業務の概要

私は、県内大学や本県医薬品産業の振興を図るため、県内産学官連携により設立した「くすりのシリコンバレー TOYAMA」創造コンソーシアムの運営事務局において、医薬品研究開発事業、人材育成事業等の企画・運営を行っています。

県内には医薬品メーカー約80社と100を超える製造所の集積があり、全国トップクラスの医薬品生産金額を誇ります。本コンソーシアムを通じて、研究開発・技術開発を一層推進し、県内医薬品産業の更なる振興を図るとともに、全国から優秀な学生が本県で学び、医薬品産業を支える人材として活躍していただけるよう、その基盤整備に取り組んでいます。

ある1日のスケジュール

8:30	<出勤・執務開始> ▼ メールチェック、 午後の会議資料最終確認
10:00	<会議①> ▼ コンソーシアム人材育成事業に関して 大学研究者とskypeミーティング
11:00	<課内での打合せ> ▼ 大学との打合せを踏まえて、 今後の事業の進め方を検討・調整
12:00	昼食・休憩
13:00	<会議②> ▼ コンソーシアム研究事業に関する 研究評価会議運営
16:30	▼ 帰庁後、会議結果の報告書を作成
17:15	退庁

公務員薬剤師としての魅力・やりがい

公務員としての薬剤師は、病院薬剤師から行政薬剤師、研究者など、多岐にわたります。

特に、行政薬剤師は、医療や食品環境衛生等、県民の生活の安全確保や、医薬品産業の振興などを進めるため、予算の企画から現場での係わりまで、幅広い業務で、陰で支える仕事です。すぐには成果が出ませんが、県政の土台の一端を担っていると感じられます。

また、富山県庁では、希望制による人事異動もあります。この制度で、希望し配属された広報課においては、「くすりの富山」を県内外、また海外にも情報発信してきました。

2～3年で異動することが多く、常に新しいことを勉強していかなければならず、大変なことも多いですが、逆に新鮮な気持ちで、様々な仕事ができることが魅力でもあります。また、新しい職場の仲間と協力しながら仕事ができるので、不安があっても大丈夫です。

求められる公務員薬剤師

本庁でも出先機関でも、常に新しい出会いがあり、幅広い人たちと係わりがあります。職場では他の職員との協調性、現場では相手に不信感を与えないことが大事です。

薬剤師としての知識も必要ですが、これからは、語学、国際展開、学術研究、ビジネス等に関心のある新しい薬剤師が求められています。

メッセージ

薬剤師の枠にとらわれず、様々な角度から県民のためにできることが公務員薬剤師にはたくさんあります。いろんな人と出会いたい、色々な業務を試してみたい方、お勧めですよ。

感染症の発生・まん延防止に向けて

健康課 感染症・疾病対策班

主任 H. A.

平成 20 年採用

高岡厚生センター、くすり政策課等を経て
平成 30 年 4 月から現所属



県内ゆるキャラとキャンペーン



担当者会議の準備風景

県民の感染症予防・治療をサポート

健康課感染症・疾病対策班では、感染症に関する業務、難病相談・支援に関する業務、公害健康被害対策に関する業務などを行っています。

私は、主に、結核対策、季節性インフルエンザ対策、難病対策として、啓発や広報、医療費助成に関する事務などを行っています。

また、市町村や関係団体が行う結核事業への助成や協力など、他機関とも連携して業務を行っています。

仕事の魅力・やりがい

近年、グローバル化により、多くの新興・再興感染症のリスクがあります。ひとつの学校や地域の感染症発生が、日本全国にまたがる大きな事象の氷山の一角であることも想定されます。

健康課には、毎日、様々な感染症や疾病に関する情報が集まってきます。刻々と変化する情報を収集し、行政職、医師や獣医師、保健師など異なる職種の同僚とともに、スピード感を持って仕事を進めることが求められます。

非常に多忙で関係者との調整も多い仕事ですが、県民の安全・安心に直結する仕事であり、とてもやりがいを感じています。

ある 1 日のスケジュール

8:30	<出勤・執務開始> ▼ メールチェック、午後の会議資料確認
10:30	<課内での打合せ> ▼ 業務の進捗状況を報告 午後の会議の最終打合せ
11:00	<報道対応> ▼ インフルエンザ様疾患による県内学級閉鎖状況をプレスリリースし注意喚起
12:00	昼食・休憩
13:00	<会議> ▼ 結核予防に関する担当者会議
15:30	帰庁後、報告書を作成 ▼ 結核健診事業の補助金審査
16:30	<メールチェック> ▼ 難病相談・支援に関する照会回答
17:15	退庁

県外出身の薬剤師も活躍

私を含め、県外出身の薬剤師職員が多数います。はじめは謎の多い富山弁に苦労しましたが、慣れれば、言葉や風習などの困りごとはありません。

車社会のため自動車の運転ができた方が便利ですが、運転をしなくても仕事・プライベートを問題なく生活している方も多くいらっしゃいます。

休日は山へ海へ温泉へ・・・県内各地へ出かけて、のんびり楽しく暮らせる環境があります。

メッセージ

県庁では薬務行政のほか健康行政などを、出先機関では病院調剤のほか衛生関連業務全般を経験できます。幅広い仕事ができるのが行政薬剤師の魅力です。色々な仕事をしてみたい方におすすめです。

環境衛生を守るスペシャリストとして

中部厚生センター
衛生検査課
技師 K. T.
 平成 30 年採用
 中部厚生センターに配属、現在に至る。



山岳衛生監視の様子
 爺ヶ岳登山口にて（筆者・右）



理容・美容所監視指導の様子

担当業務の概要

中部厚生センター衛生検査課では、食品衛生、動物愛護関係、環境衛生、薬事・毒物劇物関係などの幅広い業務を行っています。

私は、主に、毒劇物販売、理容、美容、クリーニング所、水道事業、浄化槽、特定建築物の衛生管理を担当し、許可申請、届出の受付や、監視指導を行っています。

また、管内には立山黒部アルペンルート沿線沿いや、北アルプス（立山連峰など）の山小屋があり、毎年、登山シーズンに、それらの施設への監視を行っています。

仕事の魅力・やりがい

厚生センター（保健所）の仕事は、もちろんデスクワークもありますが、実際に営業者と現場で直接会って、話し、指導をするため、いろいろな人と関わることが多く、いつも新鮮な気持ちで臨んでいます。

衛生監視では、それぞれの分野の知識が必要であり、日々勉強の毎日です。事前に準備をして監視指導に臨み、実際に役立つ時は、準備をしてよかったという気持ちになります。

また、山岳衛生監視では、立山連峰、後立山連峰の登山ルートに多数の山小屋やキャンプ場があり、これまで早月尾根、大日岳、後立山連峰など、衛生監視のため縦走しました。一筋縄ではたどり着かない施設もありますが、その分日常では見ることのできない景色や体験をたくさんすることができます。

ある1日のスケジュール

8:15	<出勤> ▼ 業務に関連する新聞記事をチェック
8:30	<執務開始> ▼ メールチェック、立入検査の準備
9:00	<書類作成> ▼ 監視指導報告書の作成
10:30	<営業者への電話連絡> ▼ 許可の有効期間終了が近い方への更新案内
11:00	<電話対応> ▼ 毒物劇物営業者の提出書類についての相談等
12:00	昼食・休憩
13:00	<毒物劇物販売業監視> ▼ 毒物劇物販売業者へ立入検査
14:30	<理容所、美容所監視> ▼ 理容・美容所へ立入検査
16:30	監視結果のとりまとめ、入力 ▼
17:15	メールチェックをして退庁

行政の薬剤師として

学生のみなさんは、「行政薬剤師」の働いている姿を見ることは滅多にないので、なかなかイメージがわかないと思います。私も学生の時に勉強していた内容と業務が異なる部分もあり、はじめは戸惑いました。

しかしながら、実際には、職場の先輩方に何でも相談でき、たくさんの事柄を教えてもらいながら進めることができますので心強いです。

法令に基づいて行う衛生管理の指導は、営業者に大きな影響を及ぼしますので、自分の発言に責任を持たなければなりません。法令の内容や営業者の方からの相談には難しいものも多いですが、理解していただいた時に達成感を感じます。

メッセージ

私たちの仕事は日常では目に入ることがありません。でも、その日常を支えるために薬剤師としての力が必要です。そういった「支える仕事」に興味のある方は、富山県職員になるという選択肢を持っていただけると嬉しいです。

衛生や健康に関する検査・調査を行う

衛生研究所 ウイルス部

主任研究員 I. M.

平成 13 年採用

衛生研究所に配属、現在に至る。



左上、右上：環境水から腸管系ウイルスを検出（筆者・中央）

左下：衛生研究所
右下：検査室の内部

人の衛生に関する調査を行う薬剤師

衛生研究所では、県民の生命と健康を守る「地域の科学的・技術的拠点」として、食品、飲料水、生活環境の安全・安心確保や、感染症などの健康危機対策のために、試験検査、調査研究、研修指導、公衆衛生情報の収集・解析・提供等を行っています。

私は、ウイルス感染症の検査と調査研究を担当しています。感染症の検査結果や流行情報は、医療機関や関係機関に報告するとともに、県民に還元しています。新規の知見は関連学会や学術雑誌に発表します。

ある 1 日のスケジュール

5:00	起床・家事・子供の世話・保育園送迎
8:20	<出勤・執務開始> メールチェック ▼ 細胞観察（ウイルス増殖の確認）
8:30	<部内の情報共有> ▼ 緊急検査事例の内容や対応について
9:00	<ウイルス検査・調査> ▼ ウイルスの型別同定、抗体測定 試薬作製、細胞継代、調査研究
12:15	昼食・休憩（休憩時間 15 分短縮）
13:00	<打ち合わせ> ▼ 部内ミーティング、所内打ち合わせ、 予演会等
14:00	<ウイルス検査・調査> ▼ 検査・調査研究の続き、物品の準備
16:00	<事務仕事> ▼ 検査結果まとめ、成績書作成、報告、 回答、相談、調査計画の立案
17:00	退庁（休憩時間の変更により）
17:30~ 21:00	保育園・学童送迎・家事・子供の世話

仕事の魅力・やりがい

衛生研究所では、医師、獣医師、薬剤師、臨床検査技師、化学や生物の研究者が働いています。

地球上に人や動物が存在する以上、新しい感染症が発生し、流行します。衛生研究所の使命は、病原体の性状や、流行状況、薬やワクチンの効果を解析することにより、対策を講じるための科学的な根拠を示すことです。公衆衛生上、対策に必要な感染症は、国や県庁、厚生センター・保健所、医療機関等と連携して調査を行います。

検査には、感度と特異性、迅速性、効率性が求められるため、新しい情報や技術を取り入れることが大切です。共同研究により調査を深めることも重要です。

子育てと仕事

幼い子供達から私の仕事は何かと聞かれると、「お母さんは、公務員で、薬剤師で、研究員だよ。『今、こんな病気が流行しているので、気をつけて下さい』とみんなにお知らせすることが仕事だよ」と答えています。情報収集のために論文を読んでいると、子供達が寄ってきて、「楽しい？」と聞いてきます。「難しいこともあるけれど、楽しいよ。」と答えています。衛生研究所の職員は、行政マンであることと、研究者であることの両方を求められると思います。協調性と継続性を大切にしています。

メッセージ

感染症や薬、ワクチンに関する知識や技術を生かして、人々の健康に役立つ仕事をしましょう！

医薬品産業の更なる発展を目指して

薬事総合研究開発センター

試験課長 O. M.

平成 11 年採用

薬事研究所バイオテクノロジー・和漢薬研究課を経て平成 30 年 4 月から現所属



富山・バーゼルジョイントシンポジウムの参加者
(バーゼル大学にて 筆者・左端から 2 番目)



医薬品の分析法に関する技術指導の様子
(質量分析室にて)

当センターの業務概要

当センターでは、最先端の研究機器や医薬品分析機器、製剤機器を導入し、県内製薬企業における医薬品開発の技術支援や県内大学等との共同研究、県内の高校生や大学生に対する医薬品実習を通じた専門人材の育成を主に行っています。また、スイスのバーゼル大学やフリードリッヒ・ミーシャ生物学研究所との学術交流、国立医薬品食品衛生研究所との共同研究も進めています。さらに、薬用植物の栽培普及や厚生労働省からのジェネリック医薬品品質確保等に関する委託事業も行っています。

ある 1 日のスケジュール

8:30	<出勤・執務開始> ▼ メールチェック、回覧物等の確認
9:00	<研究業務> ▼ 天然物の薬効評価と作用メカニズムの解析 ・培養細胞の遺伝子発現に及ぼす検体の影響をリアルタイム PCR 法で検討 ・疾患モデル動物に検体を投与し、薬理効果を評価 ・実験データの解析と実験ノートの整理
12:00	昼食・休憩
13:00	<医薬品試験> ▼ 日本薬局方に基づいたジェネリック医薬品の溶出試験 ・溶出試験器や液体クロマトグラフにより有効成分の溶出量を定量 ・データを解析し、規格に適合しているかを判定
17:00	<メールチェック> ▼ 照会等への回答
17:15	退庁

仕事の心構え・やりがい

医薬品産業は、富山県において最も重要な産業の一つです。当センターは 90 年以上の歴史を持ち、県内薬業界の発展に寄与してきました。そして、これからもさらなる発展に向け取り組んでいきます。

しかし、どのような研究・事業を行えば薬業界に貢献できるのか、それを見極めることは容易ではありません。時代のニーズを捉え、しっかり考えることが必要です。そして、一度やり始めたらブレずにやり遂げることが重要です。なかなか思うように進まないことも多々ありますが、そう心掛けています。当センターでは、これまでの重要な仕事は継続しつつ、近未来を見据えた新しい研究や事業に積極的にチャレンジしています。そこにやりがいを感じます。

職場の雰囲気

研究や事業を企画し進める上で、本人の意欲やアイデアをととても大切にしています。また、目標に向かって皆が一丸となって取り組んでいます。研究や事業は数人単位のプロジェクトとして進めていて、悩むことがあれば皆で相談し協力し合う雰囲気があります。一方、科学研究費補助金を獲得し、独自の研究も進めている職員や、大学の博士課程に通い学位を取得した職員もいます。自分のやる気を大いに活かせる職場です。

メッセージ

富山県の医薬品産業は 300 年以上の歴史を築いてきました。この歴史の継続とさらなる発展に、あなたの意欲、アイデア、経験を活かしてみませんか。

医療を通して地域社会に貢献

県立中央病院薬剤部

調剤指導班

薬剤師 K. H.

平成 27 年採用

衛生研究所を経て平成 29 年 4 月から
現所属



DMAT のメンバーと、研修会にて
(筆者・左端)



DMAT 実動訓練の様子

富山県唯一の県立総合病院

県立中央病院は、病床数は 733 床、富山県で唯一の県立総合病院であり、基幹・中核病院として富山県の医療向上に寄与すべく努めています。

県立中央病院薬剤部調剤指導班では、調剤業務を始め、病棟薬剤指導業務や抗がん剤調製業務、TPN 調製業務、院内製剤業務、医薬品情報業務、持参薬鑑定業務など病院薬剤師として多岐にわたる業務を行っています。

仕事の魅力・やりがい

中央病院では調剤業務、病棟業務以外にもチーム医療として感染対策チーム、栄養サポートチーム、緩和ケアチームなどがあります。その中でも私は災害医療を目的とした災害派遣医療チーム（DMAT）に属しています。

DMAT とは、災害発生から 48 時間以内に活動できる専門的な訓練を受けた医療チームのことで、医師・看護師・業務調整員（薬剤師を含む）で構成されています。災害などで派遣要請された際は、消防、警察、自衛隊、行政などと連携をとりながら、医療活動や病院支援を行います。近年は災害などが多発しており、県立中央病院からは、東日本大震災や熊本地震、台風による豪雨災害などで実際に派遣されました。

災害時の医療は日々の医療とは異なり、物資も人員も限られた中で医療を行う必要があります。そのように限られた中でも医療活動ができるように、医師や看護師、放射線技師、臨床工学技士などさまざまな職種の方と日々訓練しています。

ある 1 日のスケジュール

7:50	<出勤・執務開始> ▼ 泌尿器科カンファレンス参加
8:30	<抗がん剤調製業務> ▼ 外来・入院化学療法患者の抗がん剤調製業務
10:30	<病棟業務> ▼ 担当病棟の内服薬・注射薬、看護記録の確認。
12:00	昼食・休憩
13:00	<調剤業務> ▼ 入院・外来処方調剤業務
15:30	<病棟業務> ▼ 入院患者への服薬指導、内服薬セット確認、指導記録記載
17:15	退庁 ▼

メッセージ

就職活動の際に、20 年後、30 年後の自分を想像して、同じ仕事を続けられるのだろうかと悩みました。そして行政職から病院など様々な業務で、様々な職種の方と仕事をするほうが楽しいと思い、公務員薬剤師を選びました。

衛生研究所で検査・研究業務を経て、現在は病院に所属になっています。業務は変わっても薬剤師として学んだことは変わりませんし、経験は次に生かされ続けます。

みなさんも一緒にいろいろなことにチャレンジしてみませんか？